

都市再生整備計画 事後評価シート
熊野市中心市街地地区

平成23年3月

三重県熊野市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	三重県	市町村名	熊野市	地区名	熊野市中心市街地地区			面積	80ha				
交付期間	平成18年度～平成22年度		事後評価実施時期	平成22年度		交付対象事業費	1823.1	国費率	0.332				
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名 ・道路事業(羽市木中央線、西川町獅子岩線、赤坂中央線及び南北2号一本松線、西川町千儀線、駅前赤坂線) ・地域生活基盤施設(駅前駐車場整備) 高質空間形成施設(本町通り周辺細街路) ・高次都市施設(文化交流センター建設) 地域創造支援事業(文化交流センター建設(図書館部分))										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	事業名 ・道路: 親地町中央線及び一丁目親地町線、新出町亀橋線、新町線 ・地域生活基盤施設: 要山整備、観光案内等サイン設置 ・高質空間形成施設: 岩ノ谷松本峠線修景整備、親地町中央線(笛吹橋)修景整備、西川町千儀線(西川橋)修景整備、駅前トイレ整備、鬼ヶ城周辺修景整備				削除/追加の理由 道路から高質空間形成施設への対象事業の変更を行ったため、期間内の事業実施が困難になったため、他事業での施行に伴い、関連事業へ移行したため。		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響 影響なし 通行者数、生活環境の満足度の指標に関係するが、数値目標は据え置く 生活環境の満足度の指標に関係するが、数値目標は据え置く 熊野古道を訪れる人の数の指標に関係するが、数値目標は据え置く				
		提案事業	なし				-		-				
	新たに追加した事業	基幹事業	・道路事業: 平和通り線、馬留赤坂線、閑船町切立線、布袋町切立線、熊野市駅裏1号線及び駅前赤坂線 ・地域生活基盤施設: 馬留駐車場整備 ・高質空間形成施設: 親地町中央線、極楽寺線及び寺前通り線、西川町獅子岩線、式丁目線				地元住民より、要望があり、安全な道路環境と排水対策の充実を図るため、駅前駐車場の構造を変更した結果、駐車台数が不足するため、事業を追加変更する 道路のグレードアップを図るため、道路から高質空間形成施設への対象事業の変更を行った。 舗装面の美化を図ったため、駅前広場のグレードアップを図り、イベント等を開催し、集客交流を図りたいため。		通行者数、生活環境の満足度の指標に関係するが、数値目標は据え置く、各指標に関係するが、数値目標は据え置く 熊野古道を訪れる人の数の指標に関係するが、数値目標は据え置く 影響なし。				
		提案事業	なし				-		-				
交付期間の変更	当初	平成18年度～平成22年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響									
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み				
	指標1	文化交流センターの利用者数	人/年	0	17	25,000	22		185,235	あり	あり	公共交通の玄関口であるJR熊野市駅前に、市民や観光客が交流でき、観光や地域の歴史などの情報発信機能を併せ持つ文化交流センターを整備した。その結果、交通事情が良い等、立地条件が改善されたことや、これまでの図書館に比べて利用環境が向上したこと、各種イベントや会議の開催など、交流施設としての利用ができること等により、目標を達成できた。	平成24年4月
									なし	なし			
	指標2	熊野古道を訪れる人の数	人/年	22,000	14,15,16の平均	25,000	22		39,684	あり	あり	観光客をまちなかに誘導するため、他の市町では見られないデザインを使用したことや熊野古道を中心とした各種イベントを行い、熊野古道来訪者に、イメージアップを図った。その結果、熊野古道のリピーターが増加したため、目標を達成できた。	平成24年1月
									なし	なし	道路の段差解消や交通安全施設の設置など、ユニバーサルデザインに配慮した道路環境の整備を行った。その結果、高齢者や子供が歩行しやすくなり、歩歩回数が増えたことにより、目標を達成できた。	平成23年10月	
指標4	生活環境の満足度	点(5点満点)	2.7	13	3.5	22		3.5	あり	あり	地元住民の意向もふまえながら、安全な道路環境と雨水排水などの排水対策の充実を図るための道路整備を実施した。その結果、まち中の環境が改善され、安全性、快適性が向上したことやまちの景観が良くなったこと、付近住民の美化意識が高まったことにより、目標を達成できた。	平成24年1月	
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度 ₁	達成見込み				
	その他の数値指標1												
	その他の数値指標2												
4) 定性的な効果発現状況	まち中の景観整備を行い、熊野古道の雰囲気づくりをまち中へ進めたことで、観光客への熊野古道に対する意識を高めることができた。 ・まち中の環境が改善され、安全性、快適性が向上したことやまちの景観が良くなったこと、付近住民の美化意識が高まった。												
5) 実施過程の評価	実施内容						実施状況			今後の対応方針等			
	モニタリング	なし					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
	住民参加プロセス	「熊野市中心市街地活性化シンポジウム」の開催					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			今後も、地域住民組織と連携を取ながら、必要に応じて実施していく。			
	持続的なまちづくり体制の構築	「熊野市中心市街地活性化市民会議」の設立					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			同会議の運営に、行政はオブザーバーとして参加し、連携していく。			

様式2 - 2 地区の概要

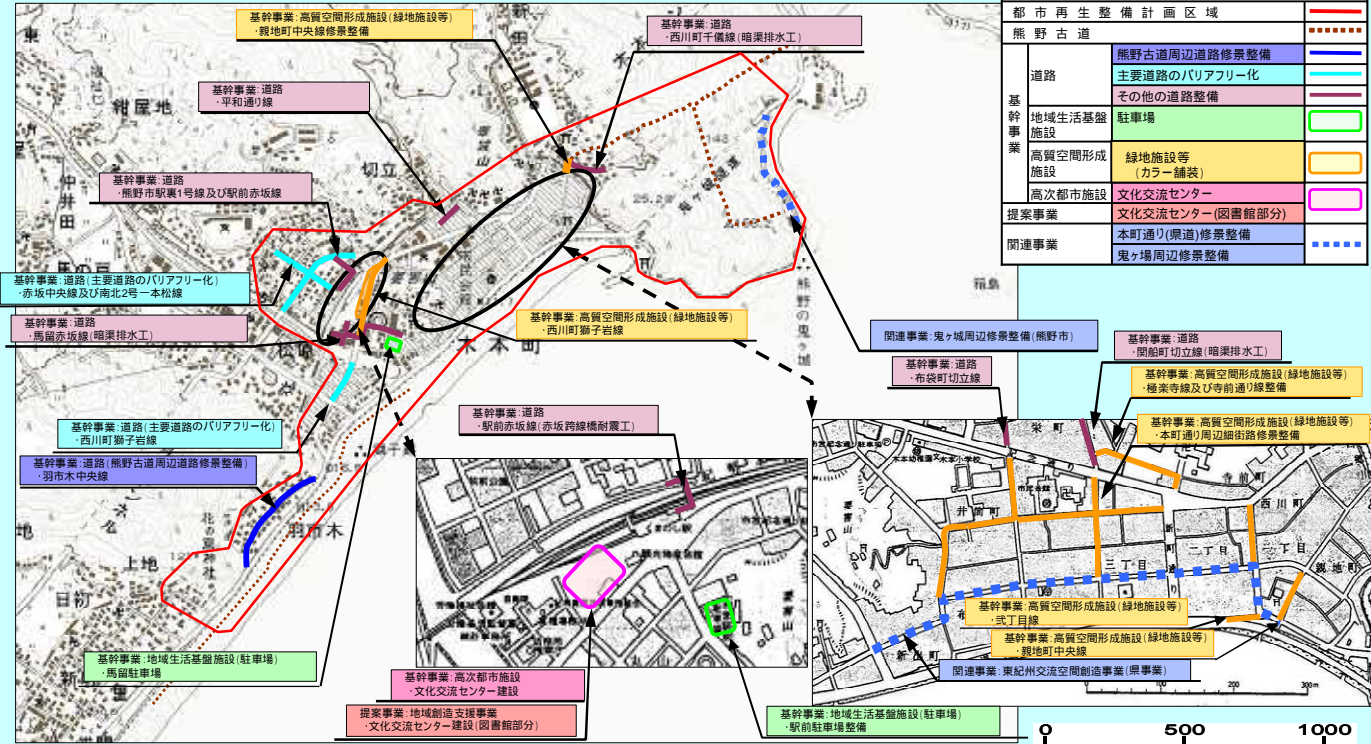
熊野市中心市街地地区(三重県熊野市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値	目標値	評価値	
地域観光資源を活かした集客交流による中心市街地の活性化及び生活環境の向上 熊野古道をはじめとする歴史的な地域観光資源を活かした集客交流を図る。 熊野古道をイメージできる景観など、まちの魅力向上を図り、観光客をまちなかに誘導する。 道路、排水路等の整備改善により安全性、快適性など地域住民の生活環境の向上を図る。	文化交流センターの利用者数	単位:人/年	0	H17 25,000	H22 185,235	H22
	熊野古道を訪れる人の数	単位:人/年	22,000	H14,H15,H16 の平均 25,000	H22 39,684	H22
	通行者数	単位:人/日	877	H17 1,000	H22 1,025	H22
	生活環境の満足度	単位:点(5点満点)	2.7	H13 3.5	H22 3.5	H22

高次都市施設・地域創造支援事業 文化交流センター・図書館建設事業



道路事業 羽市木中央線整備事業



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・何度も熊野に行きたいと思えるまちの魅力向上を図るため、道路のデザイン化を図った景観整備を実施したことや、熊野古道を中心とした各種イベントを行った結果、熊野古道のリピーターが増加した。今後も観光集客数を持続的に維持するため、未整備の周遊コースを始めとしたまちの魅力向上を図る必要がある。 ・熊野市駅前から記念通り、本町通り商店街までの活性化を図るため、熊野市駅前に文化交流センターを建設した結果、市民や観光客の交流拠点が創出され、まちの活性化につながった。交流センターを拠点施設として、中心市街地周遊コースを確立する。 ・生活道路改良や道路景観の整備を図るため、道路整備を行った結果、まち中の環境が改善され、安全性、快適性が向上したため、引き続き、道路の安全性を向上させ、すべての人が安心して暮らせる居住環境づくりが必要である。 ・地域住民が主体となったまち並みづくりの取り組みとして、中心市街地活性化委員会、花の屋活性化地域協議会が設立された結果、地域住民が主体となったまちづくりが実施されたが、まちづくりの拠点施設が整備されていないため、地域住民が集まり会議等を行うことが可能な施設の整備が必要である。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・観光拠点である花の屋・松本峠・鬼ヶ城、JR熊野市駅前を活かしたまちの魅力向上を図るため、観光拠点を結ぶ周遊コースの整備を実施する。 ・文化交流センターを活かしたイベント、生涯学習活動、サークル活動を実施する。 ・熊野市駅前を中心に、サイン設置により観光施設の案内を充実させる。 ・これまで整備してきた道路における持続的な歩行者の安全確保、道路における安心・安全性の向上を図るため、側溝の新設や舗装面の整備等により、安全性が確保されていない区間の整備を行う。 ・主体的な会議のとりくみによる地域コミュニティの活性化を図るため、中心市街地活性化委員会、花の屋活性化地域協議会を充実させ、地域を活性化させる施策を行う。 ・各地域におけるまちづくりの活性化を図るため、地域住民が集うことが可能な各地域のまちづくり拠点施設を整備する。